

## 標準委員会 第8回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2010年9月2日（木） 13：30～15:00
2. 場 所 日本原子力発電（株） 本店第3会議室
3. 出席者（敬称略）
  - （出席委員） 岡本（部会長），萩原（副部会長），吉田（幹事），岩崎，塚，平山，上野，石塚，西田，山内，浦上，沼田（邦），笠原，宮坂（14名）
  - （代理出席委員） 宿谷（堀田代理），新保（青木代理）（2名）
  - （欠席委員） 山口，越塚，市川，木下，大山，沼田（博）（6名）
  - （説明者） 田中，森本（廃止措置分科会）
  - （傍聴者） 佐藤，中村
  - （事務局） 岡村

### 4. 配付資料

#### 配付資料

- ATC8-1 前回議事録（案）
- ATC8-2 人事について
- ATC8-3-1 【中間報告】「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」改定について
- ATC8-3-2 【中間報告】「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」改定について（PPT）
- ATC8-3-3 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」改定案
- ATC8-3-4 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」改定前後比較表
- ATC8-4-1 【中間報告】「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」改定の概要
- ATC8-4-2 【中間報告】「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」改定の概要（PPT）
- ATC8-4-3 「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」改定案と「原子力施設の廃止措置の計画と実施：2006」，「原子力施設の廃止措置の計画：2009」及び JISZ8301 との関係比較
- ATC8-4-4 「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」改定案
- ATC8-5 分科会活動報告

#### 参考資料

- ATC8-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿
- ATC8-参考2 標準委員会の活動状況
- ATC8-参考3 基盤・応用技術専門部会における標準策定スケジュール(案)（2010年度以降）

### 5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員22名中、代理委員を含めて15名が出席しており、成立に必要な定足数（15名以上）を満足している旨報告された。

- (1) 前回議事録（案）の確認（ATC8-1）

前回議事録（案）については、事前に送付済みであり承認された。

(2) 人事について (ATC8-2)

分科会の人事について、資料ATC8-2に基づき事務局より次の通り紹介が行われた。

委員の退任

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| ① 有効高さ評価モデル分科会     |              |
| 込山 有人（東京電力(株)）     | 2010年7月13日退任 |
| ② 廃止措置分科会          |              |
| 伊藤 哲夫（近畿大学）        | 2010年7月29日退任 |
| 三本木 満（東京電力(株)）     | 2010年7月29日退任 |
| 山中 武（(独)原子力安全基盤機構） | 2010年7月29日退任 |

委員の新任

- |                |              |
|----------------|--------------|
| ① 有効高さ評価モデル分科会 |              |
| 青木 伯夫（東京電力(株)） | 2010年7月13日選任 |
| ② 廃止措置分科会      |              |
| 杉山 亘（近畿大学）     | 2010年7月29日選任 |
| 高木 昌和（東京電力(株)） | 2010年7月29日選任 |

審議の結果、全委員の新任が承認された。

(3) 【中間報告】「廃止措置の計画：2009」の改定について (ATC8-3-1～4)

廃止措置分科会の田中幹事より、資料ATC8-3-1～4に基づき、「廃止措置の計画：2009」に関する国の技術評価の中間報告の概要及び中間報告の中で要望された事項に対応するため、改定作業を開始したことが報告され、更に改定案の概要について説明が行われた。

審議の結果、本内容を次回標準委員会に中間報告を行うことが決議された。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 今回の改定は編集上の内容が多いのか。
  - 技術評価WGの中間報告の要望事項に対応するものが中心であり、付属書の記載を本文に転記して規定化あるいは付属書そのもの規定化するものなど、編集的な修正がほとんどである。
  - 「廃止措置の実施」の改定作業がある程度進んでからまとめて改定すべきではないか。
  - その通りであるが、まずはエンドースして使ってもらうことが大切。発電炉のみに限定したのもその一環。
- ・ 10月に臨時の専門部会を開催し、本標準（案）を報告して書面投票を行い、12月の標準委員会に本報告したいと考えている。

(4) 【中間報告】「廃止措置の実施：（改定版）」について (ATC8-4-1～4)

廃止措置分科会の森本委員より、資料ATC8-4-1～4に基づき、「原子力施設の廃止措置の計画と実施：2006」の実施部分の改定の進め方について、まずは2006年版の実施部分のみをまとめ、法令改正の影響のみを反映して改定（フェーズⅠ）し、その後全体につ

いて本格的な内容の改定（フェーズⅡ）を行いたいとの説明が行われた。審議の結果、次回標準委員会に中間報告することが決議された。

主な質疑等は以下の通り。

- エンドースは本格改定の後か。
  - エンドースされることは考えていない。本標準は、廃止措置の現場の事例を集めたデータベース、あるいはガイドラインのようなものをイメージしている。
- このような実質的な内容変更を伴わない改定が頻発する懸念があるのではないか。
- 附属書K のデータが古い。最新の知見となっていないので、見直すべき。
  - 内容については、現在見直しのための調査を進めているところであり、フェーズⅡで行う予定。調査はそれほどすぐにはできないので、その間を利用してフェーズⅠの改定を行いたい。
  - 2006年版をそのまま利用していても良いのではないか。
  - 2006年版の計画部分は、「廃止措置の計画：2009」により既に改定され、意味が無い。利用者が混乱する。
- これから改定する「廃止措置の計画（改定版）」の考え方は取り込むのか。
  - その予定。「廃止措置の計画（改定版）」を見ながら作業を進める。
- フェーズⅠの作業よりフェーズⅡに集中すべきではないか。
  - フェーズⅠをやめてもフェーズⅡを前倒しできることは無い。
  - ニーズはどうか。
  - 電力は担当者が変わっていくので、今のままでは混乱を招く可能性がある。一定のニーズはある。
  - まずは、標準の体系を完成させてから、その後内容を見直したいというのが分科会の提案。
  - 追補で対応できないのか。
  - 対応はできるかもしれない。2006年版を廃止したいのが主眼ではあるが、標準委員会への中間報告までに追補での対応も含めもう少し検討する。

(5) 分科会活動状況（ATC8-5）

ATC8-5に沿って、各分科会の代表者より活動状況の報告が行われた。

主な内容は以下の通り。

- 「原子力施設の廃止措置の計画：2009」の改定は、まず発電炉に限定したが、研究炉等についても少し遅れて取り組んでいく。
- 「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準（案）」については、12月の専門部会での本報告を予定している。

(6) 標準委員会の活動状況（ATC8-参考2）

事務局より、標準委員会の活動状況について説明が行われた。

(7) その他

次回専門部会は、「廃止措置の計画（改定案）」の作業状況を踏まえて別途調整する

こととした。

以上